

勇気が大切

呉市立横路小学校

第4学年 小松 琥珀

勇気が大切

横路小 四年 小松 こはく

「できた。」

わたしは、生まれて初めて自転車に乗ることかできた。

三年生の冬、小さいころから自転車に乗れなかつたわたしは、お父さんといっしょに練習を始めた。

まず、バランスをとるために、お父さんにいきおいをつけてもらった。新かん線に乗っ

ているみたいだ。速い。あまりの速さにこわくなつて、すぐ足をついてしまう。こわくないようにアドバイスをもらった。

「しっかり前を見て。」
「力をぬいて。」

何度も言われた通りにやってみる。するとうまくバランスがとれて、いい気持ちだ。

次に、足をペダルにのせてこいでみる。でも、ささえられていないから、またこわくなつて足をつけてしまう。（もうできないかな）

どうしよう。わたしの心の中は、まっ暗にな
 った。すると、その時、妹の声が聞こえた。
 「あきらめないで、お姉ちゃん。手の力をぬ
 いて。」
 その一言で全身の力がぬけた。少し進んだ
 か、その後こけてしまった。
 か、かりして家に入ると、お母さんがわた
 しの顔を見て言った。
 「どうしたの。何かあったの。」
 わたしは暗い顔でつぶやいた。
 「自転車に乗る練習をしても、乗れない。」
 すると、お母さんが言った。
 「いくらがんばっても、あきらめる心
 があるよ。何にもできないよ。勇気を出して
 取りくまないと。がんばって。」
 お母さんの言葉を聞いた時、「勇気」という
 言葉が心にひびいた。こわいけど、一生けん
 命がんばる勇気が大事なんだと気がついて、
 勇気を出そうと思った。
 「よし、がんばるぞ。」

ふたたび外に出て、深きうする。ゆくりペダルをこいでみると、どんどん進む。そして、ついに速くペダルをこげるようになっていった。やったあ。できた。

どんどん波打ってこぎつづけている感じがする。バランスがとてもうまくとれて、すすい進む。今まで見たことのない景色が広がっていった。

すると、お母さんが家から見てくれていた。あたしが家に入ると、

「すごいじゃん。もう乗れるじゃん。」

と、はずむように言ってくれた。その言葉でもあたしの心の中が明るくなった。心の中がとても喜んでいた。

ふと外を見てみると、妹も自転車に乗る練習をしていた。私ができた時と同じように、最初はお父さんにささえてもらってこいでいる。でも妹の自転車はふらふら進んでいた。わたしは「こわいかなあ」と思っで見ている。

た。わたしも練習していて、少しこわかった。から妹の気持ちがよくわかった。外に出て、「かんばれ」と声をかけた。しばらくして、お父さんは仕事に行かないといけなから、わたしは妹についてあげた。勇気という言葉の大切さやアドバイスをするためには、「し、かり前を見て」「力をぬいて」妹の顔を見ると、とてもしんけんなこわい顔をしていた。お父さんのやり方と同じようにし、かりささえあげているけど、（本当に乗れるのかなあ。こけないかなあ）と少し不安になった。一時間位、続いた。そこへ、お父さんが帰ってきた。お父さんは、あたしたちが練習しているすかたを見てとてもえ顔だった。「かんばって練習しとるね。」それからお父さんといっしょに妹に自転車の乗り方のアドバイスをした。

その後、わたしが自転車に乗って手本を見せることにした。やっぱりこげばこぐほどぐいぐい進む。進むのが速いから、妹はかたで息をしなから走って追いかけてくる。

「姉ちゃん、速いよ。まってよお。」
 「力い、ばい本気を出して、どんどん走ってくる。あたしもペダルをいそいでこいでいく。さわやかな風が通りぬけていく。」

小学一年生の妹は、自転車に乗って練習するが、なかなか乗れない。わたしは、
 （妹の）
 ためにこれからも練習させて、できるよ
 うにさせてあげよう、しかりおうえんするぞ」と心の中で言った。

わたしは、これからできないことがあれば「勇氣」という言葉を中心にちかべて、どんなことにも取りくみたいと思った。勇氣があれば、どんなことでもがんばれるから：

指導者の言葉

本校では、「論理的思考力の育成～共感的人間関係を基盤とした『学び合い』の授業づくりを通して～」を研究主題に掲げています。研究主題を受け、論理的思考力を育成するために、共感的人間関係を基盤とした豊かな「学び合い」が生まれる授業実践を行っています。更に、表現する力の育成に向け、月1回「思考スキルタイム」の時間を設けるなど、日々の教育活動で取り組んでいます。

作文指導に当たっては、主に次の2点に留意しました。

1点目は、「B書くこと」の領域を関連付けた指導を行ったことです。まず、単元「心の動きを伝えよう」(B書くこと)において、題材探しや取材の方法を身に付けたり、語彙を増やしたりするなど、文章を書く上での基礎的な力を身に付けることをめあてに指導しました。冒頭の書き方を工夫したり、人物の心の動きが伝わるように比喻表現等を使って表現を工夫したりするよう指導しました。

2点目は、文章構成図を作成し、現在・過去・現在と組み立てさせることで、起承転結の展開となるように指導しました。

本作品は、自転車の練習を通して、恐怖心と戦い、家族のアドバイスを受けながら見事に乗れるようになった様子が描かれています。「勇気」という母の言葉に勇気付けられ、自分の気持ちを奮い立たせる様が豊かに表現されています。また、できた喜びを妹にも味わわせてあげたいと、今度は教える立場になって練習するという温かな家族愛に満ちた作品でもあります。

また、読み手を引きつけるように、自分のもっとも伝えたい思いが表れるように題名も工夫しています。